

令和4年度 「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト」

合同研修会参加報告

令和4年8月31日(水)茨城県立青少年会館にて、(公社)茨城県青少年育成協会、青少年育成市町村民会議、茨城県PTA連絡協議会、いばらき子ども見守りネットワーク、茨城県生涯学習・社会教育研究会による合同研修会が開催され、本会教育問題委員会の委員5名が参加いたしましたので、内容等をご報告いたします。

研修会は、講演・グループワーク・モデル事業団体の活動紹介の順で進められました。



以下、内容をお知らせいたします。

1 講演

演題 「子ども・若者が抱える生きづらさ～現場から見る課題～」

講師 特定非営利活動法人 若者社会参加支援普及協会 アストリンク

理事長 浅井 和幸 先生

講演内容の抜粋

- ひきこもりの人数について
- アストリンクが考える必要な3つの支援のバランス
 - ・ スキル⇒勉強 就労、コミュニケーション能力
 - ・ 楽しみ・喜び⇒一人で楽しめる 楽しみを共有する
 - ・ 役立つこと⇒人の役立つことを 人が喜んでくれることに喜びを感じる
- よくある疑問や考え方
 - ・ きっかけは何か
 - ・ だれが悪いのか、何が原因か
 - ・ ○○ができない。
 - ・ 失敗は避けたい
 - ・ 全く変化がない 同じことの繰り返し
- 講演資料として 「えがおつながる若者新聞」第98号
ひきこもり状態からの段階別流れ図

2 グループワーク

「これからのヒント」 コーディネーター 浅井 和幸 先生



[参加者から]

※ 今回は「若者が抱える生きづらさ」と題し、主に引きこもりについての講演がありました。

声のトーンやスピード、言葉の量を相手に合わせ、反応を注意深く見ることの重要性など、多岐に渡る接し方を学びました。改めて心の問題の難しさを感じ、孤立をさせないための居場所づくりや声かけなどのきめ細やかな対応が救いとなることを強く伝えていきたいと思いました。 〈樋口委員長〉

※ ひきこもり、不登校を続かせないためには子どもたちのSOSを見逃さないこと、まず小さな成功から、人と関わる嬉しさ、楽しさを共感することが大切だと感じました。多種多様な家庭環境に対応する団体を設立、運営するのは難しい現状もあり、団体間をつなぐ活動にPTAとしても協力できたらと思いました。 〈菊池副委員長〉

※ 浅井先生の講演を聞いて、印象に残ったのが「共感力」です。

話をしている側からは相手側の共感力がよく見える場合があり、相手側の共感力も言葉が伝わっているか否かで高い・低いを見極めることができるということでした。かかわるに際して相手側の共感力を見るというのがとても大切であると改めて考えさせられました。言葉の力=内容を大きく左右するということを感じました。 〈長谷川委員〉

3 モデル事業団体の活動紹介

(1) 「つながる図書館プロジェクト」石岡市

- ・ 人と街と場所と想いがつながる交流拠点を創りたい。

(2) 雑木林で遊ぶ会 つくば市

- ・ 森の管理と活用を通して、子どもと大人の居場所づくりを推進

(3) 子ども食堂ふぁみりー かすみがうら市

- ・ 子どもから大人の「ふれあいの場」をつくりたい。

画像は、次のページです。



つながる図書館プロジェクト



雑木林と遊ぶ会



子ども食堂ふぁみりー

〈参加者から〉

※ 今回の合同研修会に参加させていただき、現在、孤立している若者が多いことに驚きました。周りでも、ひきこもりの若者がいますが、どこか現代の問題というだけで、身近なもの感覚ではなかったと気付かされました。子ども食堂はよく耳にする言葉になりましたが、子どもたちの行き場づくりの大切さ、地域全体での支援・理解が求められています。子どもの教育は学習だけではなく、子どもを見てその子らしさを見極め、導くことも大切なのだと思いました。 〈加藤委員〉

社会の変化によって多くの利便性が得られましたが、その反面新たな悩みが生まれているように感じました。人付き合いができず、繊細で傷つきやすい若者が増加しており、様々なストレスに過敏に反応してしまう。家族は経験したことのない対応に追われ、腫物を触るようなことしかできずにいる状況が改善されていないように思います。地域や家族がこれを理解し、もっと鈍感に生きていいことを伝えられたらと思います。やはりコミュニケーションを取ることが一番の解決策であると考えます。 〈横山委員〉